

平和宣言

1945年8月9日午前11時2分、広島に続いて二つ目の原子爆弾が、長崎の地に投下されました。

遠く離れた大村からも閃光や爆音、爆風、キノコ雲が確認されるほど大きな破壊力を持った原爆は、一瞬にして人々を焼き尽くし、生活の場を瓦礫に変えてしまいました。

髪の毛を焼失した人、皮膚が焼けてはがれ落ちた人、やけどで体がはれ上がった人、背中にガラスが刺さっている人。大村の海軍病院に運び込まれた被爆者を目の当たりにした人たちは、原爆の被害のすさまじさに言葉を失ったと伝えられています。

このような痛ましい歴史がありながら、人類は1万2千発もの核弾頭を保有し、朝鮮戦争やキューバ危機、ベトナム戦争、湾岸戦争などで、使用が検討されたこともありました。

そして今もなお、ロシアによるウクライナ侵攻、中東地域で続く武力衝突や対立など、世界各地で多くの人々が戦争や紛争による苦しみの中に置かれています。特に、子どもたちや一般市民の命が奪われ、故郷や家族との平穏な日常が失われている現実には、私たちは深い悲しみと憤りを覚えます。

私たちが平和について考えるとき、まず守りたいと願うのは、家族や友人、大切な人の命、そして安心して暮らせる居場所です。それは誰もが持つ当たり前の願いであり、戦争によって決して奪われてはならないものです。

しかし、平和とは単に戦争がない状態だけを言うわけではありません。一人ひとりが互いを尊重して違いを認め合い、誰もが安心して暮らせる社会こそが真の平和であると私たちは考えます。その実現のためには、核兵器の問題だけでなく、差別や偏見、貧困や格差、SNSなどによる対立、誤った情報の拡散といった課題にも向き合わなければなりません。

そうした平和な社会を実現するために、私たちが何よりも大切にしたいのは、「関心」「対話」「理解」「共感」「継承」「行動」の六つの姿勢です。

私たちは、世界で起きている出来事に関心を持ち続けるとともに、情報があふれる現代だからこそ、何が正しいのかを自ら考え、事実を見極める力を身につける必要があります。

また、世界には自分たちとは考え方や価値観の異なる人が大勢います。それでも私たちは、相手との対話を重ね、理解できる点や共感できる部分を少しでも見つけて、それらを広げていく努力を続けなければなりません。

さらに、戦争や被爆の歴史を学び、その記憶と教訓を未来へ受け継いでいくことも、私たちに課された重要な責務の一つです。

そして、差別や偏見を見過ごさず、身近な人を大切にして、自分にできる行動を積み重ねていくことが、平和を築き、守り続ける力となります。

未来を生きる私たち一人ひとりが、平和の担い手です。

大村高校定時制の生徒は、長崎の被爆の歴史を語り継ぐ者として、核兵器廃絶を願い、戦争を繰り返さないための不断の努力を続けます。そして、対話をあきらめず、違いを認め合い、行動する勇気を持って、希望にあふれる世界の実現を目指すことを、ここに宣言します。

令和8年8月9日

長崎県立大村高等学校定時制 生徒一同